

ガンコ親父の

昔々の話。暑い日が続き、村一番の元氣者である松次郎さえも顔をしかめる程の毎日だった。村の仲間から、盆前だし、怪談話大会でもしないかという提案があった。松次郎は怖い話でも聞けば、少しは涼しくなるだろうと思い、主催することにした。早速、参加者を募り真夜中に、村外れの荒れはてた一軒家に集合することに。村の仲間の十人がそれぞれ一本のロウソクと怖い話を持ち寄った。全員で火を灯し、とっておきの恐ろしい話を順番に披露。一話終わるごとに一本ずつロウソクの火を消していくルールだ。ロウソクの灯りが消えるごとに暗がりが増えだんだん増していった。話を進めていくうちに火の点いたロウソクは最後の一本になった。もう寒気がしてきても良いはずなのに、逆に熱の入った怪談話で盛り上がり、部屋は熱気で充満。納涼のためのイベントなのに、主催者の松次郎は責任感で息苦しかった。

こんなこともあるのかと松次郎は、有名な「雪女」の妖怪話をさらに怖くした話を用意していた。話のクライ

マックスでは村人が凍らされて、雪女に骨までボロボリ食べられる怖い話だ。誰だって肝を潰すに違いない。精一杯の身振り手振りで怖さを増幅させて話し終え、ふと最後のロウソクの火を消した。

その瞬間、得体のしれない冷えた風が部屋にピューッと吹き込み、全員が思ってもみない冷気に包まれてしまった。みんなが驚いているところに、ごとごとと音を立てたあと天井板を突き破って、大きな丸氷が部屋の真ん中にどくと落ちてきた。

当時、氷などほとんど目にするのができなかったし、氷はとんでもない貴重品だったのだ。これは神様がくれた「努力賞」に違いない。全員で割って持って帰り、松次郎は涼しい顔で「しまっちゅ伝蔵」のオンザロックを楽しんだ。

その話を聞きつけた松次郎たちに敵対するグループも同じように、贅沢品の氷欲しさに怪談話のイベントを開いたのだった。恐ろしい話を用意して臨んだはずだったが、松次郎たちの話よりレベルが落ちた。最後の者の話が終わり、ロウソクの火を消し終え、みんなは氷の登場を期待した。しかし、天井の穴から轟音とともに現れたのは、なんとそろばんを持った雰囲気の良い神様であった。

「ん、あまり怖くない話ばかりじゃのう。おまえ

達はずっと勉強せにやならん。あゝそうそう、この前みんなに請求するのを忘れておったあの氷代を払ってもらおうか」と凶悪そうな目になって、金銭を要求した。「もし払えんようなら、代わりにおまえさん達の寿命をいただくことになるが、それでもよいのか？」

みんな即時に肝っ玉を冷やしてしまった。みんなはなけなしの金銭をむしり取られて、氷より冷たくなった心を抱えて、自分の家にトボトボと帰っていった。

恐ろしい話もいけれど、納涼は心と体を適度に冷やすオンザロックくらいのもにしましょうね、ふふっ。



奄美黒糖焼酎
しまっちゅ伝蔵
でんぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造(株)はこの活動を応援しています。



「納涼」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。